

Come, follow me

マルコ 1 : 14 ~ 20



イエス・キリストの弟子は12名。

シモン(ペテロ)、アンデレ、ヤコブ、ヨハネ。

4人はガリラヤ湖で漁師をしていた。

イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」 【17節】

彼らはどう応答したか？ するとすぐに、彼は網を捨て置いて従った。【18節】

決断とは、他の選択肢を捨てることでもある。

会ったばかりの方に、こんな大切な決断をすぐさまできるだろうか？

イエスの福音を聞いて既に知っていたのではないか？

後に残す家族のことを考えたのではないか？

について行って大丈夫かと悩んだのではないか？ ルカの福音書に詳細がある。

マルコの福音書は経過を一切省いている。

肝心なのは、「従ったという決断」なのだとやっているよう。

どうして決断できたのだろうか？ 「どうして」と説明できただろうか・・・？

洗礼を受けてクリスチャンになった。しかし、そこに行きつくまでに、何年も、何十年もかかった人もいる。

もっと聖書を理解してから・・・。信じられるようになったら・・・。

家族の問題が解決したら・・・。いろいろ考えて足踏みをする。

イエス様に新しくされた人生は、決断した時から始まった。

初代教会ではイエス・キリストに従っていくことは、切実な思いがあった。

ユダヤ教をやめることであり、何千年と続いた選民としてのユダヤ人のアイデンティティーを捨てることであった。

*「クリスチャン」・・・「キリストについて行く者」という当時のあだ名。

【デートリッヒ・ボンヘッファー】

「従順な者だけが信ずることが出来る。重要なのは第一歩である。その第一歩は、それに続く歩みとは質的に異なるものである。従順の第一歩が、ペテロを網から、さらに舟から離れるように導いた。」

◆イエス様が宣教を開始する時にご覧になっていたのは、

目の前の事柄に追われ、日々の糧を得るために一生懸命な漁師の姿。

救い主がそばにおられることに気付かず、目も向けず、

自分の事に無我夢中・・・・・・・・。自分自身の姿も重なる。

そのような人たちのそばまで行って、声を掛けられた。

「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」

「自分を捨てる」や「従う」ということは、時代と逆行している？！

自分の執着や、自分自身を捨て切ることはできないのが私たちの現実。

イエス様の招きに応じて初めて、自分自身から、自分の執着から解放されて、本当にすべきことが見えてくる。